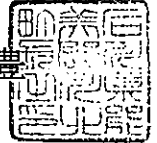




収 川 土 第 1415 号
平成 20 年 10 月 7 日

国土交通省 道路局長 殿

川北町長 西田 耕豊



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付、国道企第 37 号で依頼のありました標記の
件については、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

石川県 川北町

○現状

道路機能の低下(老朽化)

無駄を無くした、真に必要な道路の選定
(地域住民の生活の安定)

○課題

道路機能高めめる為には、維持管理の徹底及び、必要となる事業費補助金の安定確保が必要。

都市部の交通緩和の為の施策は、解るが地方部における、早急な道路整備計画策定及び、整備の実施(事業費の投下)が必要。

町内で申し上げますと、現在県道の四車線化事業が平成11年度より実施されているが、いまだに完成していない状況であります。

平成19年度の交通量が、13,000台(12時間)にもかかわらず、現在まで本年度をいれて10年の期間が経過し、1,485,000千円の事業費が投下されているが、加賀産業道路より国道8号まで、延長7,740m・総事業費約5,500,000千円であり、何年経ったら完成になるのか解らない現状がある。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

石川県 川北町

②ー１ 地域の現状と抱える課題

○ 現状

住民が、事故等が無く、安心して暮らせる又、
ライフラインの充実が立ち遅れている。

道路維持管理費の増大による、町財産の圧迫

○課題

現状道路網を有効に利用しながら、道路整備を実施
していく事が必要。

国・県による補助金を道路維持管理にも適用出来る
よう、補助基準の見直しが必要。

町の基本計画に基づき「人にやさしい・質の高い道路整備」が今後求められる課題である。

人にやさしい道路整備については、高齢化の進行や交通安全に対するニーズが高まる中、歩行空間のバリアフリー化や交差点改良など、より道路の安全性・利便性を求められる。

質の高い道路整備については、沿道の緑化・集落内道路の修景整備など道路のアメニティ要素を踏まえた道路整備の検討が望まれる。

小さな町だからこそ出来る、交通ニーズの変化に敏速に対応した交通体系づくりとして、子供から高齢者まで、誰もが気軽に外出できるよう、交通体系の検討・確保が望まれる。

以上の観点から、今後道路整備を重点的に行うには、道路財源の確保・財源の地方への重点的配分又、柔軟な補助体系が必要となる。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

石川県 川北町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
該当ありません			